

かぜのきざし

2012 DECEMBER

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第020号

2012年12月10日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造



長年の念願が叶い、高知県で四国初となる「全国の集い」を無事盛会に開催できました。ご尽力いただきました理事の皆さま、地元実行委員の皆さま、並びに会員、ボランティアの皆さまに改めて感謝申し上げます。「おらんくで自分らしくさ

「四国・高知大会を終えて」 夢に向かかって

第18回 全国の集い in 高知2012

大会長 福田善晴

いごまで」(地域の未来を考える)というテーマに沿い、様々な内容についてディスカッションが展開されました。国内のほか、海外からはデンマーク、韓国、台湾から講師を招き、貴重な

お話しを拝聴することができ、広い視点から在宅ケアの意義を学び、多くの市民と熱く語り合うことができました。大会であつたと思えます。1200名を超える参加者の在宅ケアに対する個々の想いが、大会を通じて一つの流れに収斂されていく様子に心震えました。

昨年から、徳島、香川、愛媛、長崎、大阪においてプレ大会を開催し、私自身も多くの方と知り合う機会を得、加えて四国四県ともに非常に熱意のある先生、スタッフが多数いらつしやることを知りました。四国は「在宅医療・在宅ケア」が全国と比較して遅れていると言われるのは、各々が孤軍奮闘されている現状からであろうと想像します。大会をきっかけとして企画作成について何度も顔を合わせて話し合い、また一緒に食事し酒を飲むことによつて顔馴染みとなり、お互いを知る良い機会となりました。県境を越えて交流が深まったことは大きな財産です。この財産をネットワー

大会初日、ワタミグループ渡邊美樹取締役会長に、「夢」について講演いただきました。夢の実現のために、5年後・10年後のビジョンを明確にし、日々努力を惜しまないという言葉に同感し、私たち医療・福祉従事者は、在宅でさいごまで生活したいと希望される方のために、地域の未来像を明確にし、情報を出し合い、お互い手を取り合い、励まし合う関係作りが必要不可欠ではないでしょうか。「老

後一日も楽しませて空しく過ごすはおしむべし。最後の一日、千金にあたるべし。」貝原益軒が養生訓に残した言葉は、私の想いそのものです。在宅ケアに携わる私たちは、患者様、利用者様に千金の一日を送っていただくために具体的なビジョンを持ち、日々精進し、広くネットワークを構築し、山積された課題をネットワークの力で克服していくことができれば夢の実現に大きく近づくことができます。NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークに所属するだけでなく、全国の集いに参加することはもちろんのこと、皆が自ら積極的に会員同士で顔馴染みの関係を作り、助け合う努力をすれば、きっと素晴らしいネットワークが誕生すると思います。ま

たいと考えています。私たちの夢を実現していき

第18回 全国の集い in 高知 2012

実践交流会 優秀賞の発表

メルマガでも紹介されてますが、表彰者の紹介をさせて頂きます。各座長をされた方々が選定されました。なお、詳細については、来年発行予定の「報告書」において、実践交流会について、全ての発表内容を掲載する予定です。

第二会場
在宅生活の継続

頰椎手術後の人工呼吸器
管理から離脱できた症例

三嶋 泰之

(さくら風の村訪問診療所)

共同発表者：志村緑、井上裕子、
相馬せつ子、伊藤武美、川島さ
おり、渡邊正子



第三会場

訪問&通所サービス

時代を先取りした通所サー
ビスを目指す次世代リー
ダー会議の主導による

浅野 崇

(サンバレーかかみ野)



第四会場
新しい取り組み

地域医療魚沼学校による
在宅医療連携拠点事業

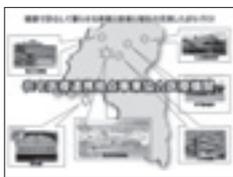
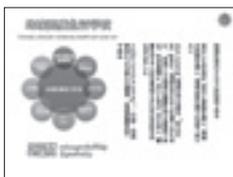
上村 伯人

(医療法人社団 上村医院)

黒岩 卓夫

(萌気園診療所)

中島 拓
(中島脳外科内科医院)



第五会場

口腔ケアと栄養管理

「口から食べ続けること」
を目指して

濱口 祐三子

(サンシテイ調布ケアサービス課)

共同発表者：吉沢梓 佐藤みずほ





第八会場
多職種協働

ひとりの突然の笑顔が病棟を変えた〜多職種協働で医療中心から生活中心へ〜

林 仁美
(鶴沼中央クリニック)

第七会場
障がい児・者

障がい児・者医療的ケア 日中一時支援事業所おとわの杜の現状について

市川 さつき
(日中一時支援事業所おとわの杜)

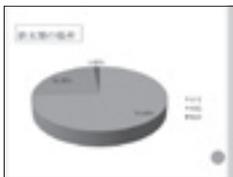


共同発表者：渡辺邦子(医療法人信愛会 穂の国訪問看護ステーション) 所長：大石明宣(医療法人信愛会 理事長)

第八会場
ケアマネジメント

「命の終わりを我が家で！」を地域の中で考える 〜地域を終の住処とするケアマネジメントとは?〜

深田 知洋江
(ゆづらいふ居宅介護支援事業所)



共同発表者：北村 八重子 川本文江 濱田 里美 原田 郁子 西村 友孝

第九会場
認知症

思い出の映像により自分の人生を辿る〜過去から現在へとつながっているその人の姿に触れる〜

中村 洋子
(グループホームてらら)



認知症とスタッフが人間的な関係をつかむ〜思い出の映像〜 その人らしい生活を支えていきたいと考える。

協同発表者：土井 正樹(医師) 土井 輝子(グループホームてらら どのホーム長)

第十会場
サービスの質の向上

在宅医療クリニックにおける事務職員の役割―電話応対―

荒木 美帆
(医療法人エイチ・シー・ユータけとみクリニック)

共同発表者：辻尾 香里・河村 絃子・時尾 恵里・武富 賢治



「電話応対」の重要性と役割 在宅医療クリニックにおける事務職員の役割―電話応対―

第十一会場
地域づくりと災害

災害発生時における当訪問看護ステーションの行動指針について

勝本 公章
(医療法人実幸会 南柏老人訪問看護ステーション)



Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの9～11月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。

事務局ニュース2012.9

医師・法人会員活動紹介

「ホワイト歯科クリニック」

藤 秀敏

ご無沙汰いたしておりました。仙台大会以来でしょうか。当院も午後は訪問診療主体で、編成がタイトになってきています。歯科医師2、歯科衛生士3、歯科技工士1、歯科助手等4人の体制です。

連携の中の気づく点をあげてみます。

摂食嚥下に問題がある患者も、認知症がらみの食べることに障害がある方が増えており難儀しております。病院施設からの往診依頼で、食事が、名称と実際が施設ごとにまちまちであることが少なくありません。食事のすりあわせや食事処方の連絡体制があ



るといいのにと思っております。

不慮の死は、死因の4位で、その中の食物による窒息死は交通事故死数を超えています。口腔機能と食形態の関連は、誤嚥性肺炎対応ともども注意が必要です。

口腔の廃用は、思っているより進行します。義歯をリハビリの杖と考え、脱感作、廃用予防、嚥下補助装置、そして軟食対応、咀嚼対応と口腔の機能に応じた対処をしています。離床の対応のステップと同様と考えています。

震災のおり、近隣の七ヶ浜町国際村の避難所に島根県DMATのチームの一角を借りて、40日ほど毎日夕方から出向いて対応しました。一般に、歯科の受診率が2%という痛み等の主訴に対して、食べにくさ、食べられない、口の乾き、違和感を切り口としての対応で受診は40%ほどになり

ました。画一的な食事の問題が、露呈しており、温かい食事と休息が何よりの支援と感じましたし、安息の夕食前後の対応が良かったようです。心が解けてくると、口も開いてきてる体験をしました。被災地では、往診・障害者、食べられることに対応していただく。歯科医療を希望していただいた。生活を支える医療がこれからの医療のフロントランナーとして、被災地医療にも不可欠と思いを新たにしているところです。

今後ともつながる、つなげる医療を組み立てていきたいと念じています。ご指導のほどお願いいたします。

ホワイト歯科クリニック
〒9850872
宮城県多賀城市伝上山4-8-20
TEL:0221-36716151
FAX:0221-36113632
E-mail:naoyami@npx.mesh.ne.jp



エレクトロニクスで病魔に挑戦

NIHON KOHDEN

わたしたちが、夢の実現をお手伝いいたします。すべては、医院開業の成功のために。

60 おかげさまで創立60周年
ヘルスクアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4
創立/1951年8月
事業内容/医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

日本光電 医院開業支援

<http://www.nihonkohden.co.jp/iryo/practice/>
E-mail :Kaigy@mb8.nkc.co.jp

事務局ニュース2012・10

第18回全国の集い in 高知 2012

盛会に終了致しました

日時：2012年9月16日(日)・17日(月・祝)
場所：高知市文化プラザかるぽーと／高知福祉専門学校
テーマ：おらんで自分らしく生きていこう

全国の集い in 高知は盛況のうちを終えることができました。全国から多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。

ワタミグループ創業者取締役会長長渡美樹様による特別後援や、大会長企画ではデンマークから講師の方をお招きした講演など、他にも盛りだくさんの内容で、熱気ある空気に包まれました。

大会長福田先生より、ご報告をいただいております。

時下、皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、去る9月16日・17日の高知大会では、会員の皆さまを含め1200名を超える方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。



大会長：福田善晴



心配された台風も会場内の熱意に押されて大事には至らず、各企画ともに内容が充実した有意義な大会でした。デンマーク、韓国、台湾の方を講師にお招きし、グローバルな視点で日本の在宅ケアを考察することができ、また看取りや過疎化の問題を含めた地域包括ケア、認知症、障がい、リハビリ、接遇など様々な課題について見つめ直す機会を得、実践交流会等では市民目線で積極的に一歩踏み込んだ議論が展開されたと思えます。高知県は少子高齢化、独居老人、老々介護等多数の問題を抱えています。これらは同時に在宅医療推進者としての私どもの課題でもあります。

ます。在宅ケアの必要性和素晴らしさを知っていただき、ネットワーキ化を進めていく高知型在宅ケアの構築は、10年後の日本の在宅ケアモデルになると手応えを感じております。大会をきっかけとして、在宅医療・在宅ケアのネットワークを強化し、地域に根ざしたサービスを展開していかねければならないと新たな使命を感じています。

会員の皆さまの今後のご発展を祈願致しますとともに、今大会におきまして、多面にわたり行き届かない事が多々ありました事を深くお詫び申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

新規購読のご案内

高齢者の住まいと介護・医療を考える

高齢者住宅新聞

2013年新年特大号
平成25年1月5日号

●発行形態：定期購読・タブロイド版(20ページ) 月3回(5・15・25日)発行
●主要読者層：施設運営会社、介護サービス会社、医療法人、社会福祉法人、人材サービス、給食配食会社、不動産・建設会社、土地所有者、設備機器・建材、システム関連、金融関連、自治体ほか
年間購読料 18,000円(税込・送料別)

サ付き住宅・有料老人ホームの未来～法改正による影響と介護事業者の取り組みを紹介～

2013年2月より週刊予定

- サービス付高齢者向け住宅ローカルルール特集
開設ラッシュが続くサ付き住宅における主要自治体の規制・ルールを調査
- 都道府県別「有料老人ホーム設置運営指導指針」検証
老人福祉法改正に伴う有老ホームの開設指針を主要自治体ごとに一挙掲載
- 業界再編進むM&A特集
大手企業による新規参入の状況と今後を独自取材
- ヘルスケアリート・投資ファンド特集
有料老人ホーム、サ付き住宅、病院を対象とした不動産ファンドの最新動向を一挙公開
- 介護事業者サービス別ランキング調査
売上高、訪問介護、デイサービス、ショートステイ、訪問看護、小規模多機能型 居宅介護 他

購読お申し込みは
右記のいずれかの
方法で

TEL **03-3543-6852** ※高齢者住宅新聞購読係とご用命のうえ、お名前、会社名、ご連絡先、ご住所をお知らせ下さい。

ホームページ <http://koureisha-jutaku.com> [新聞購読申込](#)

メール info@koureisha-jutaku.com

FAX **03-3543-6853** 下記に必要事項をご記入の上FAX下さい。

株式会社高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>

医師・法人会員活動紹介

「医療法人社団青藍会、社会福祉法人青藍会」

阿武義人

NPOホームケアメンバー医療法人社団青藍会、社会福祉法人青藍会は、山口県山口市で平成2年より、19床の有床診療所であるあんの循環器内科を母体として、620名の職員が医療・介護・保育サービスを提供することにより地域に貢献しています。あんの循環器内科、ハートクリニック南山口は、質の高い効率的な在宅療養生活を支えるべく、医師を始めとする医療



職が既設の2ヶ所の青藍会在宅医療支援センターハートホーム(吉敷、新山口)と連携をとり定期的に在宅に訪問する体制を強化(強化型在宅療養支援診療所H24・4)致しました。今年、ハートハウス新山口(サービス付高齢者向け住宅、山口市川西地区小郡緑公園前H24・7)、ハートホーム宮野新館(特別養護老人ホーム、国内最大規模の国産材による木造耐火構造建築の福祉施設、山口市北東地区宮野小学校前H24・8)を開

設致しました。

住まいを基本とした、質の高い効率的な全人的医療・介護や次世代育成と共に、働く人の質向上を目的とする研修センターを強化(ヘルパー養成講座開設H24・10、認知症を治すケア研究会開催H24・11)し、青藍会の理念で

ある「私たちは、医療・保健・福祉の分野で、地域の方々の生活を、生涯に渡って支えることに最善を尽くし、そして、そこで働いていることに誇りを持ちます」を今後も実践して参ります。

医療法人社団 青藍会
あんの循環器内科
社会福祉法人 青藍会 ハートホーム
〒753-0813
山口市吉敷中東1-1-1
TEL:012(2)281056
HP: <http://www.seirankai.or.jp>



全体を包み込む優しさとして「百獣の王」が、全人的な地域医療をベースとする当グループの理念を表現。



暖かい軽快感が、メンタル的にも支えとなり、行き届いたお手伝いをする姿勢を表現。



森の中で常に周りを見守っている様子が、健康であるための定期的な検査と健康を呼びかける。



真心をお届けし、地域の方々の生活を生涯に渡って支えていく。配色サービス・ヘルパー養成の活動も行う、当グループのサービスに対する理念を表現。

摂食回復支援食

あいらと



摂食回復支援食とは… 通常の食事を取ることが難しい方の食べる機能と栄養摂取を支援するための食事です。



お問い合わせ・資料請求の連絡先



イーエ又大塚製薬株式会社

東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング13階

お問い合わせ窓口

TEL.03-3515-0170

月曜～金曜 9時～17時(祝祭日、年末年始、お盆を除く)

第19回 全国の集い in 新潟 2013 福島プレ大会

在宅ケアを支える伊達ネットワーク大会

平成24年10月20日、21日、在宅ケアを支える伊達市ネットワーク大会には県内外からたくさんの方をお迎えし、盛況のまま終えることができました。参加してくださった皆様はもちろんのこと、今大会の開催にあたり、ご支援・ご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。

今大会のため実行委員会を組織し、企画を行ってきましたが、その中で話された、大会のテーマが二点ありました。

まず一つは伊達市(福島)の現状を正しくお伝えすることです。シンポジウム・見学会での発表にもありましたように、昨年の震災から福島県は見えにくい、臭いもない放射性物質汚染の問題に頭を悩ませております。不安を煽るような風評もあり、特に幼い子供を抱える世帯では苦渋の決断の末、高齢者を残して様々な場所へ避難するケースも多く、元々過疎化が進み、高齢化率の高い地域により深刻な影響を与えております。市内各地で除染作業は進められておりますが、

除染で出た汚染土がそのすぐ近くの仮置き場に置かれている状況では、なかなか前向きに希望を見出すことも難しいといった事情もあるようです。また、記念講演をお願いしました福島県介護支援専門員協会会長千葉喜弘氏のお話にもありました、伊達市内には全村避難となった相馬郡飯館村の方々が住む仮設住宅があるように、被災地域でありながら他地域の避難者の受け入れにもなっているという福島ならではの特殊性があります。こういった複雑な地域の現状と課題をその当事者でもある、私たち自身が正しく受け入れることはその将来を考えると重要です。また県内外の方たちにも広く知っていただく機会を作ることには震災の問題も風化しつつある昨今、この大会を敢えてこの伊達市で開催する意味になるのではと考

えました。



伊達市長のご挨拶

もう一つは医療・福祉の専門職、行政、一般市民との垣根を無くし共通の将来の目標としての「地域包括ケアの仕組み」を共に考えるきっかけを作ることです。住み慣れた町で自分らしく暮らし続けることを目的とする地域包括ケア、当地域の実情として、まだまだそれぞれの領域でのみの議論に止まり、地域全体としての取り組みまでには発展していないという状況でした。一方で医療・福祉の担当者の中にも将来の地域包括ケアを念頭に、先駆的な取り組みをされている事業者もあれば、震災復興、新たな町づくりに取り組む行政、震災の影響

響で崩壊しかけた地域の絆を必死に繋ぎ止めようと頑張っている市民団体の皆様がいました。地域包括ケアの旗印のもと、共に考え、共に実践する機会をつくることは今まさに必要なことだとも感じました。

実際に今大会にはまだまだ人数は少ないながらも一般の市民の方にも多く参加していただくことができました。また、大会の実行委員に長年市民活動を続けてこられた「NPO 法人里山がっこう」の方にも市民代表として参加していただき、開催にあたり中心的な役割を担っていただけたことでより充実した内容にできたことはもちろん、私たち専門職の団体と行政、市民が協力し合って大会を実現できたということが、何よりも大きな前進であったと感じております。大会は終わりましたが、全国の皆様のご支援をいただいで芽生えた地域包括ケア実現のための芽を大事に育てていきたいと考えております。引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。



猪飼大会長の挨拶

全国大会への準備、順調に進んでいます。

「全国の集い in 新潟 2013」実行委員会

来年の開催に向けて着々と準備をしております。既に6回の実行委員会が行われ、黒岩大会長をはじめとした60名近い実行委員の「意気込み」が感じられる準備状況です。

2013年へもあとひと月、いよいよ「来年」から「今年」となり、益々準備に熱がこもるようになってきました。

会員の皆様へお願いする「実践交流会」の演題募集も始まります。昨年より早い時期にお願いを開始する予定であり、皆様の参加、登録をお待ち申し上げます。

写真は昨年10月に開催された福島大会の様子です



「全国の集い in 岡山 2014」の企画委員会も既にスタート

更に、再来年に開催予定されている岡山大会へも動き始めました。既に、「実行委員会」に先立つ形で「企画委員会」が2回開催されました。

20年ほど前「在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク」が産声をあげて以来、その目的に沿うように、行政による「多職種協働」や「地域包括ケア」等の施策も具体的なものとなりつつある中で、10年前よりその名称に「市民」という単語を入れ「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」となった私たちの会も、新しい方向性を求められるようになりました。

そんな新しい方向を目指す形の岡山大会にしたいという思いで準備を進めております。

写真は12月に行われた第2回企画委員会の様子です。



第19回 全国の集い in 新潟 2013 プレ大会

認知症医療・ケアのゆくえ～認知症の人を地域・多職種で支えるために～

開催日時：平成25年2月16日(土)
14時30分より18時00分まで
会場：TKP 東京駅ビジネスセンター
1号館ホール2B
東京都中央区八重洲1-4-21 共同ビル
(東京駅八重洲北口 徒歩2分)
主催：NPO 法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

◎内容

14:30～15:30 基調講演

●講師

宮島 俊彦氏 前厚生労働省 老健局長
(座長) 畑 恒土氏

演題『わが国の認知症医療・介護政策の方向性』

15:30～17:40 シンポジウム

テーマ『認知症医療・ケアのゆくえ』

●司会

苛原 実氏 中嶋 久矩氏

●シンポジスト

苛原 実氏 BPSD調査結果報告
勝又 浜子氏 (厚労省の立場から)
岡崎 和佳子氏 (看護師ケア職の立場から)
大澤 誠氏 (開業医の立場から)
遠矢 純一郎氏 (認知症初期集中支援チームの試み)

●コメンテーター 宮島 俊彦氏

17:45～18:00

閉会のあいさつ 黒岩 卓夫氏

参加費 会員 無料 / 非会員 3,000円

※会員⇒在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
※定員150名になり次第、閉め切らせて頂きますので
お早めにお申し込みください。

主催/NPO 法人在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク

いらはら診療所(浅沼・小池)

TEL: 047-347-2231 FAX: 047-347-2551

風の萌

2012年12月10日発行(第020号)

頒 価：1部50円 会員は無料

◆発行 特定非営利活動法人(NPO)

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokunet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市区緑区籠山3-119 カーサフクシマC-32号

◆編集「風の萌」編集委員

∞∞∞編集後記∞∞∞

新潟大会実行委員会、岡山大会企画委員会などに顔を出しています。ドタバタしているうちに師走になってしまいました。今年もあとわずか……会員の皆様、良いお年をお迎え下さい。良い年になるようお祈り申し上げます。

(T.Y.)